

学会企画シンポジウム 5

アクティブラーナー育成を支える教員組織の形成の工夫 ——学級担任制と学年担任制との比較を通して——

【企画趣旨】

「主体的・対話的で深い学び」がキーワードの学習指導要領も完全実施されている学校現場では、インクルーシブ教育の推進、ICT の積極的な利活用など、他の多くの課題も抱えている。このような教育実践が具体的に展開される学級集団では、個別最適な学びを踏まえた、協働的な学びの実現ができるような集団づくり、学習活動が求められているが、そのハードルはとても高いといえる。

『令和の日本型学校教育の構築を目指して(答申)』(中央教育審議会、2021)では、個別最適な学びと協働的な学びの実現のために、教員組織に関する課題が指摘されている。教師の長時間勤務による疲弊や教員採用倍率の低下、教師不足の深刻化の現状に対して、それを踏まえた質の高い教職員集団の実現、校長を中心に学校組織のマネジメント力の強化を図る必要性が提案されている。つまり、建設的な教員集団での組織活動を通して、個々の教師の実践力を高めていく必要性を提起していると考えられる。この場合の教員組織は、教師の学びや成長を促すような教員組織・学び合いのある教員集団の形成が目指されるのである。その具体策として、学校現場では、チームとなる教員組織づくり、ラーニングアナリティクスを活用した教員組織づくり、学級担任制から学年担任制への改革等、様々な取り組みが行われている。

本シンポジウムでは、教員集団での組織活動を通して、各学級の個別最適な学びと協働的な学びの実現ができるような集団づくりや学習活動の向上を目指し、学級担任制や学年担任制をとって、試行錯誤をしている実践者や研究者から話題提供をしていただく。そして、各取り組みの難しさとそれを克服するポイントを見出したいと考え、本シンポジウムを企画した。本シンポジウムの参加者一人ひとりがそれぞれの実践現場において、前向きに教育実践を展開するためのヒントを得られることを期待する。